

3 令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

| | 視点 | 4年間の目標 (令和6年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (月 日実施) | 総合評価（月 日実施） | |
|---|--------------|---|--|--|--|------|----------|--------------------|-------------|-------|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 | 教育課程 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を行う。 ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習指導を行う。 ・「聞き取る力」「読み取る力」「書く力」「要約する力」「説明する力」を高める学習指導を行う。 ②多様な入学生徒に対応する教育課程を編成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ①授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的な学習を通して、求められる力の育成を目指し、学習の深まりと拡がりにつながる授業を実践する。 ②教育課程・学習支援 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況や進路希望に応じた幅広い学びを可能とする教育課程に基づいて、主体的・対話的な学習の実現を目指す。 ・一人一台端末の導入に対応した学習活動の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ①不断の授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善プロジェクトチームを中心に I C T 活用と主体的なグループ学習を柱とした研究授業を計画し、授業改善に生かす。 ②教育課程・学習支援 <ul style="list-style-type: none"> ・夏期講習の充実を図り、生徒の積極的な参加を促す。 ・実用英語技能検定、日本漢字能力検定等の一層の積極的な受験を促す。 ・通級指導を含めた教育課程の評価・見直しを行う。 ・一人一台端末を活用した授業実践を促す。 ・ I C T を活用した課題提出及び成績処理を促す。 | <ul style="list-style-type: none"> ①授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチームによる授業改善の実施 ・生徒による授業評価 ・管理職による授業観察の評価 ②参加状況調査等 <ul style="list-style-type: none"> ・夏期講習等の参加状況調査 ・各種検定試験の受験者数の調査 ・授業における端末の使用状況と生徒の取組の調査 ・通級指導にかかる生徒が成長を感じることができたか。（アンケート） ・成績処理に I C T を活用し、職員の負担軽減をできたか。 | | | | | |
| 2 | 生徒指導・支援 | <ul style="list-style-type: none"> ①ホームルーム・生徒会・部活動と学校行事の一層の活性化を図る。 ②規範意識、自己管理能力、責任感の醸成を図る。 ③いのちを大切にする教育、教育相談体制の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ①部活動や生徒会行事を活性化し、生徒の自主的・主体的な活動を積極的に推進する。 ②ルール・マナーを遵守する意識と自己を管理する能力の向上、責任感の醸成を促す指導を徹底する。 ③S C ・ S S W と連携しながら、支援が必要な生徒について、状況把握と解決に向けた取組を迅速に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ①部活動や生徒会を中心とした委員会活動や学校行事への取組において、生徒の自主性を高め、生徒が主体的に企画・運営できるように支援する。 ②法律や校内ルール、交通マナーなどの社会通念を遵守する重要性を、始業式・終業式等あらゆる機会を通して具体的に指導する。 ③学級担任やS C ・ S S W との連携をより密にし、個々の生徒の課題を早期に把握し、解決に向けた適切な取組を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ①部活動や行事にかかる生徒対象のアンケートによる生徒の充実感の状況 ②法律や校内ルール・社会的マナーに反する言動はなかったか。 ・昨年度と比べて地域の方からの指摘や生徒の問題行動の件数の状況 ③支援が必要な生徒の課題を早期に把握し、適切に対応することができたか。（教育相談の件数） | | | | | |

| | 視点 | 4年間の目標 (令和6年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (月 日実施) | 総合評価(月 日実施) | |
|---|--------------|---|---|--|---|------|----------|--------------------|-------------|-------|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 3 | 進路指導・支援 | ①生徒一人ひとりの進路意識を明確にさせ、希望進路の実現に向けた積極的な働きかけを行う。 | ①上級学校や外部機関と連携し、生徒が自身の進路を明確にすることを図るとともに、進路実現に向けて支援を行う。 | ①上級学校見学や職業体験への積極的な参加を促すし、日頃から生徒自身の進路を考える機会を増加させる。 ・学習・進路ナビのワークシートを活用した探究活動の定着を図る。専門学校と連携し、介護職員初任者研修を実施する。 | ①上級学校見学や職業体験の参加者数の状況調査。及び、介護職員初任者研修に参加した生徒の人数、資格取得状況 | | | | | |
| | | ②特に上級学校進学率の向上を目指し、目標設定から対策の徹底を図る。 | ②各種選抜方式に応じた受験準備を生徒に促すとともに、進路を見据えた発展的な学習支援を行う。 | ②進学ガイダンスの充実を図るとともに、外部テストの受験機会を増やし、生徒の発展的な応用力を養う。 ・参議院議員通常選挙に係る模擬投票を実施し、政治参加への意識付けを高める。 | ②模擬試験等外部テストの受験者数、大学入学共通テスト受験者の増加状況調査 ・魅力・特色アンケートの満足度 ・模擬投票の投票率及び政治参加意識の高まりをアンケートで調査 | | | | | |
| 4 | 地域等との協働 | ①インクルーシブの観点から「福祉の心」の涵養を図る。 | ①「福祉の心」を育むために必要な場面を積極的に設定する。 | ①教科をはじめとした教育活動全体をとおして、多様性を適切に理解し、助け合いが必要な場面を設定する。 | ①「福祉の心」を育むために必要な場面を設定した数 | | | | | |
| | | ②地域学習を通じて地域への理解と地域貢献に対する意識を高める。 | ②地域との交流の機会を増やし、地域貢献への理解を深める。 | ②「総合的な探究の時間」や「社会福祉基礎」をはじめとした科目をとおして、地域との交流を行い、地域のさまざまな行事への参加を図る。 ・ボランティア活動等の職員の負担軽減を図る。 | ②地域の行事への参加数及び参加者数 ・ボランティア活動等の引率及び担当者会議への引率数及び会議の出席率を低下できたか。 | | | | | |
| 5 | 学校管理 学校運営 | ①清掃活動の充実、学校美化を推進する。 | ①清掃活動を推進し、継続して校内美化と学習環境の整備を図る。 | ①清掃活動を通した校内美化の意識づけと、用具の充実、整備を行う。 | ①清掃活動や環境整備の状況 | | | | | |
| | | ②SDGs等の観点から防災体制、防災教育を強化する。 | ②防災体制を整え、諸訓練を通して緊急時の対応力育成を目指す。 | ②備蓄品の管理・整備を行い、状況に応じた諸訓練を行う。 ・会計業務において教員補助者を活用し、負担軽減を図る。 | ②備蓄品の所在、数量・消費期限の把握と諸訓練の実施状況 ・ストレスチェックにて、負担軽減の項目が改善できたか。 | | | | | |